

第43回 東北地区小中学校教頭会研究大会福島大会に参加して

青森市立浪岡南小 八木橋 直哉

11月9日(木) 1日目

【第5分科会】 13:00~16:00 ホテルハマツ

◇前半「教職員の資質向上を図るための教頭の役割」～教職員の協働体制の構築～
(各県の参加者から)

- ・校務分掌を考える上で「適材適所」を意識
→苦手なことを担当させると、負担感が増す。
- ・若い教員を育成するための手引き(実践助言例)を作成。(登米市教頭会)
- ・校内研での工夫→事前授業などを行わず、1回勝負の授業公開、お互いに声掛けし、行ける人が見に行くようにしている。
- ・若い教員の資質向上→自校内出張(初任者が、自分のクラスを離れ、別の教室へ授業参観。その間、教頭・教務などがクラスの授業を担当)
- ・ベテランと若手による双方向の取組
→若手からはICTのスキル伝達、ベテランからはコロナ前の効果的な取組の伝達
- ・教頭からの直接指導→堅苦しく感じるので、ベテランからの声掛けを活用。
- 若い人がとても少なく、75歳の講師もいる。仕事を頼んでも「できない」と言われる。50代の教員は、定年まで残り少なく、やる気が無い。同じベクトルを向けない苦しさがある。

◇後半「魅力ある学校づくりを目指す教職員の資質・専門性向上への取り組み」

～「学校力」を高める組織マネジメント～

(各県の参加者から)

- ・ふくしま市立の支援学校ということで、本来、公立の小中学校の先生が集まってきた学校であるため、指導のスキルがあまりない。そのため、専門性を高める目的で、小中高の各部会での取組を紹介するようにしている。
- ・管理職、養護教諭も含めて、みんなで道徳の授業を行っている。
- ・山形では、初任研(2年かけて)、3年目研、5年研、ステージアップ研、中堅研(後期)と、外部の研修が充実している。
- ・中学校区単位での授業研修会を行っている。(マネジメントは教頭)
- 校内研など、急に予定が入ると、やりたくないという理由で年休を取って帰る先生もいる。なかなか全員がそろえることがない。
- 校内研の充実が一番手っ取り早いと思われるが、規模の小さい学校では、やりくりが厳しいのではないかと。

11月10日(金) 2日目

【記念講演】 10:30~12:00 けんしん郡山文化センター

講師 箭内 道彦氏 演題「轍をゆくな。轍をつくれ」

浪人して東京芸大に入学した箭内氏が、地元福島になかなか帰ろうとしなかった理由や震災を機に福島を応援することになった経緯、人と違うことをすることへのドキドキ感や怖さなど、福島の人たちの開拓者精神についてなど、自身のプロデュースしたMVや、自身のバンドで演奏している楽曲の映像等を交えながら90分お話しいただいた。

これからの予測困難な時代をどう生きるか、人としてどう生きるか、ヒントをもらえたような講演だった。